

第2・3学年 道徳学習指導案

日 時 平成20年9月26日(金) 5校時
対 象 2年生 男1名 女5名 計6名
3年生 男1名 女7名 計8名
指導者 第2・3学年担任

- 1 主題名 生きものをたいせつに〔自然愛、動植物愛護 3－(1)〕
- 2 資料名 ひきがえるとろば
- 3 主題設定の理由

(1) 価値について

第3学年及び第4学年の指導項目3－(1)は、「自然の素晴らしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にする。」となっている。自然や動植物とのかかわりに関するものであり、自然や動植物を愛し大切にしようとする児童を育てようとする内容項目である。第1学年及び第2学年の3－(1)「身近な自然に親しみ、動植物に優しい心で接する。」を受け、第5学年及び第6学年の3－(1)「自然の偉大さを知り、自然環境を大切にする。」に発展していく。

昔から日本人は、自然に親しみ、自然と一体になりながら動植物を愛護し、豊かな情操を育ててきた。自然や動植物を愛し、自然環境を大切にしようとする態度は、地球全体の環境悪化が懸念される現在、特に身に付けなければならない大切な道徳的価値である。

低学年では、動植物の飼育栽培などを経験し、自然や動植物などと直接触れ合うことを通してそれらに対する優しい心を養うことが求められる。そして、中学年で、自然や動植物を大切にすることを更に深めていくことが大切である。

(2) 児童について

学級の児童は、動植物に対しては強い興味と関心をもっており、これまでに生活科で小動物を飼育したり、野菜を育てたりする経験をしてきている。また、全校で取り組んでいる一人一鉢のカンナの花の栽培や学級のハムスターの飼育にも大変意欲的である。

しかし、児童の興味・関心は特定の動植物に対して抱いているものと感ずることもある。自分の好きな動植物に対しては一生懸命世話をするが、苦手な動植物だと友だちに任せてしまうという場合もある。このような実態から、動植物を大切にしようとする態度が十分とはいえない。

そこで、自然や動植物などと直接触れ合うことを通して、それらに対し優しい心で接しようとする心情を育てていきたい。

(3) 資料について

アドルフたちはひきがえるに石を投げつけていた。子どもたちに追われて、ひきがえるは、車が通ったあとにできたくぼみに隠れる。するとそこへ飼い主にムチで打たれながらろばがやってきた。ひきがえるに気付いたろばは、目を閉じている小さな生き物に鼻を近づけ、友だちを見るような優しい目でじっと見つめた。そして、残った全ての力をふりしぼり、ついにひきがえるのいるくぼみをよけて通りすぎたのである。

それを見たアドルフは、ひきがえるを草むらに放してやり、遠く去っていくろばの後ろ姿をいつまでも眺めているという話である。

アドルフの心の変容を共感的にとらえさせることにより、動植物を大切にしようという心情を育てるのに適した資料である。

(4) 研究との関連

	研究内容1	研究内容3
	体験活動を生かした指導の工夫	自己の心を見つめる場の工夫
具体的支援・指導	ハムスターを世話している時の気持ちを思い起こさせることで、価値への方向付けをする。	自分の考えをはっきりさせ、より深く考えられるようにするために対話を取り入れる。

(5) 指導にあたって

学級では、1学期からハムスターを飼い交代で掃除をしたり餌をあげたりするなど、親しみをもって接している。

気づく段階では、どんな気持ちでハムスターを世話しているかについて考えさせ、価値への方向付けを図りたい。

見つめる段階では、場面の状況を把握しやすいように場面絵を使って資料提示をする。興味本位でひきがえるに石を投げつけているアドルフが、ろばの行動を見ることにより気持ちに変化していることに気付かせる。また、ろばが精一杯の力を出し切ってひきがえるをよけて通りすぎた場面については、自分たちの行為を反省するアドルフたちの気持ちを考えさせる。

つかむ段階では、ペアで対話をするにより、自分の考えをはっきりさせ、より深く考えるようにさせたい。ひきがえるを助けたろばの姿から、生き物の命の大切さに気付いたアドルフの気持ちに共感させ、動植物を大切にしようとする心情を押さえ、価値を把握させていきたい。

広げる段階では、動植物を大切にした経験を発表し合い、生き物に優しく接していこうとする気持ちをもたせたい。

まとめる段階では、自然界の動植物を見守り続けている方の話を聞くことで、自然や動植物を愛し、自然環境を大切にすることをもちせ、今後の意欲化を図りたい。

事後の取り組みでは、心のノートを活用し、自然と仲よく暮らすことの大切さについて考えていきたい。

4 本時指導の位置付け

事前の体験活動	本時の指導	事後の指導
<p>○ハムスターの飼育 ハムスターに直接触れ合う経験を通して、動物に対し優しい心をもって接する気持ちをもつ。</p>	<p>○道徳 主題名 生きものをたいせつに 価値 [自然愛、動植物愛護 3-(1)] 資料名 「ひきがえるとろば」 ねらい 自然の素晴らしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にしようとする心情を育てる。</p>	<p>○ハムスターの飼育 動物を大切にすることを更に深めていく。 ○『心のノート』で自然と仲良く暮らすことの大切さについて考える。 2年 P52～P55 3年 P54～P57</p>

5 本時の指導

(1) ねらい

自然の素晴らしさや不思議さに感動し、自然や動植物を大切にしようとする心情を育てる。

(2) 展開

	学習活動と主な発問	予想される発言や心の動き	指導上の留意点
気づく 5分	<p>1. 学級のハムスターを世話しているときの気持ちを振り返る。 ○みんなはハムスターをどんな気持ちでお世話していますか。</p>	<p>・かわいい。 ・なかよししようね。</p>	<p>・ハムスターの世話をしている写真を提示することにより、飼育体験を想起させ、価値への方向付けを図る。 (研究内容1)</p>

見 つ め る	<p>2. 資料を読んで感想を出し合い、学習の課題を確認する。</p> <p>○「ひきがえるとろば」の感想を発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきがえるを助けたろばは優しいなあ。 ・アドルフたちは、最初はひきがえるに石を投げていたけど、最後には逃がしてあげたのでよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読む前に、ひきがえるの写真を提示し、アドルフたちの気持ちを考えるための手助けとする。
つ か む 30 分	<div data-bbox="331 459 1010 544" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>遠くさっていくろばのうしろすがたを見ながら、アドルフはどんなことを考えていたのでしょうか。</p> </div> <p>3. アドルフの気持ちを中心に考え、話し合う。</p> <p>○アドルフは、どんな気持ちでひきがえるに石を投げていたのでしょうか。</p> <p>○アドルフは、ひきがえるのいるくぼみをよけていったろばを見て、どんなことを考えたのでしょうか。</p> <p>◎遠く去っていくろばの後ろ姿を見ながら、アドルフはどんなことを考えていたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろいぞ。 ・気持ち悪いからやっつけよう。 ・もっと当たれ。 ・ひきがえるを助けるためにもっている全ての力を出したんだ。優しいなあ。 ・ぼくたちは、なんてひどいことをしたんだろう。 ・これからは、こんなことをしないよ。 ・どんな小さな生き物でも大切にしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を活用し、各場面の状況を把握してから感想を出させ課題へとつなげる。 ・おもしろ半分で、ひきがえるに石を投げつけているアドルフの気持ちに気付かせる。 ・ひきがえるを助けたろばを見て、自分たちの行為を反省するアドルフたちの気持ちを考えさせる。 ・自分の考えを話したり、相手の考えを聞いたりして、考えをより深めることができるようにペアでの対話をする。 (研究内容2) ・ひきがえるを助けたろばの姿から、生き物の命の大切さに気付いたアドルフの気持ちに共感させる。
広 げ る 5 分	<p>4. 自分の生活を振り返り、これまでの経験を発表する。</p> <p>○今までに動物や植物を大切にすることはありますか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・怪我をした動物が元気になるまで世話をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動植物を大切にしたら経験を発表し合い、生き物に優しく接していこうとする気持ちをもたせたい。
ま と め る 5 分	<p>5. 自然界の動植物を見守り続けている方から聞いてきたことを紹介する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これからは、生き物に優しくしていくよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然界の動植物を見守り続けている方の話を聞くことで、自然や動植物を愛し、自然環境を大切にしようとする気持ちをもたせ、今後の意欲化を図りたい。

